

題 言

九 月 一 日

大震災後の満四年目が来た。

佐藤功一博士は、日本の建築家程恵まれたものはない、ロンドンなどでは一流の建築家でも一生涯の内に二つか三つの知名の工事に當る位のもので、他は修繕工事のみであると言はれた。

之は必ずしも建築のみではない、一般土木工事としても大震災後の大工事は大正の末と昭和の初め程に盛んな事は今後再びあるまいと思はれる。

此の大工事時代を我々工事技術者は如何に思想しつゝ如何に實行しつゝあるか。

### 作久發電所の新施設

水車を發電機をワンフローに据付るゝか、水壓鐵管路に大なるデファイレンシャルサージタンクを設置するゝか、水壓鐵管の現場鋸打にブルリベターを使用するゝか、それ等は日本に於ける最新最高の能率的施設に相異ないが、それ以外に設計と施工の努力は其の現場工事を見る者に充分の参考となるものである。

上越南線の最も交通便利なる利根川べりに作久發電所の大工事が目下盛んに進捗しつゝある。關東水力電氣株式會社の經營で斯界の先覺者たる鶴田勝三氏が技術部長として全力を盡しつゝある。

實地を見て参考すべき最近著名工事の一である。(本文参照)

### 關門トンネルの浮足場

關門隧道の彦島から門司に向つての第一ボーリングは六月十日終つた、あこ約十九本は場所柄丈けに厄介な仕事ではあるが、來年は調査を終る事と思はれる。

昭和四年からは海底隧道掘鑿の工事も愈々着手されねばならぬ。

自動車道の水底隧道さへソロソロ考へられねばならぬ時代ではある。

良く準備せられたる浮足場ボーリングの状況を見て、我々は關門隧道工事の前途に何等の不安を感じない、工事は周密なる努力と斷行あるのみである。

### 御所トンネルのコンクリート工事

御所トンネルとして知られたる東京市内省線四谷驛と信濃町驛間のトンネル工事は鐵道省第二改良事務所の中山忠三郎氏が主任技師として最善の設備と、最新の工法により完全なる施工をなしつゝある。

中山氏の説による市内の各種コンクリート工事の中で此の鐵道の改良工事情完全なコンクリート工事は他に見られない、日本の工事は米國の眞似を良くするが、然し實際工事の點に至つては到底米國に及ばない、此點は現場に臨む者が一大覺悟を要するこの事である。

請負工事にバツチャープラントやスランプテストを指定したのは恐らく中山氏が初めてらしい。

此の勇氣と確信を以つて日本の工事技術が初めて生きて来る。(本文参照)

### 敬虔なる『架設を了して』

神の前には人間の力もまここにはかないものではあるけれども、合理的な努力は人間の技術を萬能の如くに感ぜしめる。

500 呎のバランスドアーチ橋のエレクションを了へた、熊本阿蘇山下の第一白川橋は本號に又た工事最後の壯觀を窺めた。日本の工事技術も斯の如く進歩しつゝある、工事に直面せられたる諸氏の努力が卓上十年の議論よりも如何に尊きものであるかを知る。

『中央に於て下弦材が寸分の狂も見ずに結合した時には一同微笑した。』

其の微笑こそ涙ぐましい努力の實感であらう。